

出合い ふれあい 助け合い

あべの

NO 69

車椅子で ちょっとお出かけ

二月のであい

寒さも和らぎ沈丁花の香りがどこからともなく漂う平成四年二月十五日(土)午後一時、育徳コミユニティーセンター二階研修室に於て、二月の出合いが開かれた。

初めにビデオ「車椅子で、ちょっとお出かけ」を観賞した。

車椅子を使用している障害者が家から京阪電車(くずは駅から)や福祉タクシーを利用して目的地(滋賀県立大津美術館・県立身体障害者文化福祉センター)へ行く道すがら、介助者に外出時の不便さや(歩道の段差・切符販売機の高さ・駅の階段)、交通機関(電車・福祉タクシー)の利用の仕方等について説明しながら、それに関わる人達との対応の仕方、出合いの楽しさを話す。といったストーリー

最後に、障害者が街へ出て行く事の不自由さを一般の方々に知っていただき、その時々での

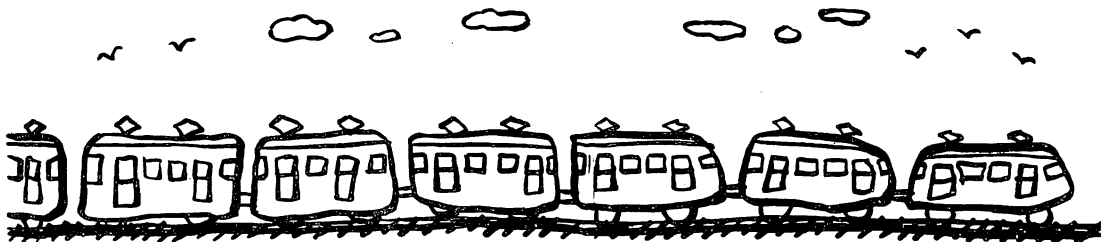
介助等の理解をも得たいとビデオは結んでいる。

観賞後、参加者の方々とご一緒に、大阪で利用している交通機関について話を伺った。

大阪の電車

切符の販売機の高さに、高い機械と低い機械があり、車椅子からでも切符が買いやすいようになり、エレベーター・エスカレーター等の設備面で改良されて来てはいるが、まだまだの感が強い。一方、職員の対応も、よく気をつけてくれ声を掛けてくれる人がいたり、いつも利用する駅では、顔馴染みになって、気軽に対応してくれる。が、一般的にはまだまだ充分とはいえない。

この他に、設備があっても車椅子の目線からは見えにくいエレベーターの案内。車椅子用通路の標示を無視して出入口に駐車がしてあり、運転手が来るまで出られない



かった話。電車に乗降する時にスロープ板を用意してくれている駅があるが、無い駅の方が多い話。等々、電動車椅子での外出の体験に伴う要望が出された。

大阪市のリフトバス

平成三年十一月十四日より、大阪市営バスにリフト付路線バスが運行された。まず初めに幹線七一号系統（なんば〜鶴町四丁目）路線から始まり、今年一月からは一号系統（天満橋〜あべの橋）、幹線四号系統路線（地下鉄長居〜出戸バスターミナル）に運行されている。

このリフト付路線バス運行の為の運動に参加され尽力されてきた磯崎章一氏（大阪頸髄損傷者連絡会副会長）と、リフト付路線バスを毎日利用している浜本浩喜氏の二人にその内容と実態について話を伺った。

リフト付路線バスは、大阪・京都・神戸の各交通局が共同で、メ

ーカーに開発を依頼したもので、路線バスとしては、大阪市が日本で初めての試みとなった。

平成三年度に十一両（一両は十一月、十両は一月上旬）が導入され、三路線に運行が始まった。

このバスは、前方入口からリフトが降りてくる。そこに車椅子・電動車椅子が乗るとリフトが昇り、運転手の横に着く。この時、料金は後方へ移動しており、通路は広くなっている。右折して車椅子・電動車椅子設置場所（三人用座席を折りたんで設置場所となるので、混んでいる場合は乗客に立ってもらう事になる）、Uターンをして指定場所に固定する。リフトの昇降時間は、四五秒だが、車椅子・電動車椅子が固定されるこの間、三〜四分かかる。又、満員の時の設置は、通路の乗客に降りてもらい、Uターンをする。

リフトバスは、地下鉄等とは異なり、地上での並行移動となるので、車椅子使用者にとっては乗降



が楽に出来、窓外の景色が楽しめる。運転手の対応もよく、乗客の方々も親切に接してくれているので、気がねをしないで乗車出来ている。又、遠方へ出掛ける時も電動車椅子のバッテリーの節約が出来るので、時間や距離にゆとりを持って行動出来るようになった。

車椅子・電動車椅子の昇降や設置は時間がかかり、先を急ぐ乗客には迷惑をかけるかもしれないが、障害者は時間がかかるものとの認識と理解をお願いして、ご協力をいただきたい。これ迄の体験になかった広がりをもっと充実したプラス面に変える為にも……と。

車椅子・電動車椅子使用者が単独で広範囲に移動出来る事は、積極的に地域や社会に参加出来る事になり、リフトバスを使って「車椅子で、ちょっとお出かけ」が気軽に出来る日が、そう遠くないことを祈りつつ。

司会は上平幸雄氏、参加者十九名。

ナンペイの

ひとつこと&ふたこと

19

リフト付きバス

「サロンあべの」の二月の出合いで話題の中心だった、大阪市営のリフト付きバスに先日初めて乗った。

乗った区間は、あべのから上六まで。

法事で妻の実家のある八尾まで行くことになったのだが、今までだとJRで天王寺まで出てそこから近鉄の上本町までは妻の電動車椅子の後ろに私がつかまって行く、いわゆる「電車ごっこスタイル」で三〇分から四〇分かけてトットコ、トットコ行くことが殆どだった。

もちろん、他にももっと楽に八尾まで行く方法は幾つかあるのだが、どのルートをとってもどこかの駅で階段を昇るか降りるかしなければならぬ。手動の車椅子ならともかく乗っている者の体重も含めると百キロを越えるだろう電動車椅子を担ぎ上げて貰うことでどうしても気を使うのがいやだという妻に、

文字通り引っぱられて八尾まで出掛けていた。それが今回、まさにバッチリのルートにリフト付きバスが走るようになった。何という幸運!

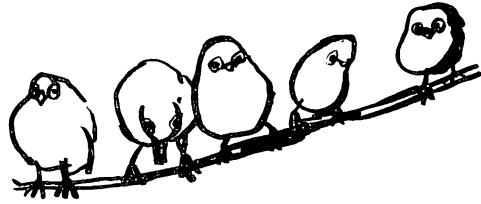
前置きが長くなったが、実際に乗った感想はまさに快適そのもの。空いていたこともあったが、心配していたバスの中での方向転換もスムーズに出来たし、運転手も親切に、そしてテキパキと介助してくれ、その点でも気持ち良くバスを利用させてもらった。

ほんの二、三年前にテレビで紹介された時に半ば憧れのような半ば羨望のような気持ちでアメリカの街を走っているリフト付きバスを見ていて、いつかは乗ってみたいと思ったものだった。

それがこんなにも早く自分自身が、そしてアメリカではなく大阪の街で実際に乗れるようになる。「夢のような出来事」である。

ここまで粘り強く、そして着実な運動を進めてきてくれた人々に心から感謝したい。

南光龍平



∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙六八号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、六八号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六一六九一一〇二八)

Volunteer Center

11

九 ボランティアセンターの機能(各論)

② ニーズ把握

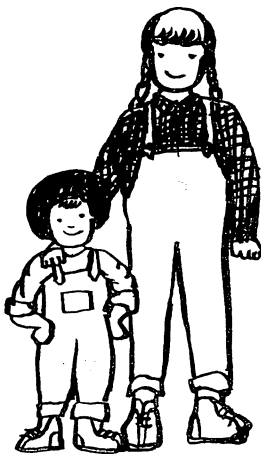
ニーズ把握は福祉問題をかかえて援助が必要な人がどこにいて、どのような問題をもっているかを把握することである。

ボランティアセンター(VC)では、地域における福祉の身近な相談窓口のひとつとして、ボランティアで対応できるかどうかは別にして積極的にニーズ把握にとりくむことができます。最近よくいわれる「保健・医療・福祉のネットワークづくり」の中で、VCの特徴を生か

したニーズ把握の役割をはたしていくことが求められるのである。

相談窓口としてのVCの特徴は、行政の窓口などに欠けている柔軟さや気軽さをもっていることである。これらは行政でも当然配慮すべきことなのであるが、なかなか十分にできていないのが現状である。こうしたことから本来行政で対応すべきニーズもVCに入ってくるため、それらを行政の制度によるサービスにスムーズにつないでいくための連携・協力体制が重要である。

もうひとつ、VCでのニーズ把握の特徴であり、また、課題となるものとして「ボランティア自身によるニーズ把握」の能力を高めていくということがある。つまり、ボランティアはただ単に活動を行うだけで



はなく、活動を通して地域の福祉・生活に関するさまざまな問題ふれることによつて、地域におけるさまざまな問題に気づく力を高めていくことも活動の大切な意義のひとつであり、そのための支援がVCとして必要なのである。

VCでのニーズ把握では活動の対象を発掘するという面も大きい。活動者の希望や活動条件にあつた活動を見つけては、

活動の意識がある人を実際の活動につなげてボランティア活動を広めていくいくためには不可欠である。

VCにおいてニーズ把握機能を高めていくには、まずはVCの存在自体を広く知ってもらうことが必要である。そのためには積極的な広報活動を行い、VCの活動を理解してもらうことが重要である。

また、関係機関や団体との連携によつて、

他の機関・団体で把握されたニーズでボランティアが関わることが望ましいものを把握する。さらに、ニーズ調査や当事者の組織化によるニーズの発掘を行うことも必要である。これらは社協の重要な仕事でもあるので、社協と協力して効果的にすすめていくことが求められる。

原田 仁

哲学教師

級友たちの喜びや悲しみに疑問をいだき、毎日を埋める言葉や習慣に空々しささえ感じていたばかりには、大学に入学して初めて目のあたりにした瘦身の哲学教師は、その若さすらも深い思

想と探索の証しのように思えるほどだった。

そのぼくの視線に応えたのか、その若い哲学者は、最初の講義に出席していたばかりを喫茶店にさそってくれた。コーヒーに入れたミルクを混ぜる彼の指は女性のそのように細く、あらためて顔をみると、やはり若い娘のように白いのだ。彼の講義は、「労働者階級」について語っていたが、彼のからだは明らかに「労働」を連想させるものではなかった。

いささか退屈しているような様子を彼の横顔に認めると、ぼくは早ばやと自分が「哲学者」を目指していること

を告白していた。彼は、それほど表情を変えなくてもなく、大学に勤めなくても「哲学する」ことはできる、自分は大学なんてあきあきしているなどと愚痴のようにつぶやくと、いまの時代にこんなところで哲学なんてできないよと投げやりな調子で答えた。

彼は、ぼくが名前を出した哲学者を取り上げ、「彼はナチス・ドイツに対して銃をもつて闘い、生きるか死ぬかのときに考えて考えて本を書いた。だから時代が変わっても世界の人が読むんだらう。こんな平和な日本で、たいして苦勞をせずに生きてきている我々が、どんなに考えたって、世界の人が

ちの心を動かすようなものは書けないね」と笑った。

あやふやな虚無感や、毎日がつまらないといった感覚からは、優れたものは生まれまいということだろう。ある評論家は「徒然なるままに」書かれたものを古典としている日本の文学を批判している。そこには、生命を賭しても貫こうとする思想がないというのである。

喫茶店であの教師の言葉を聞いてから、すでに十数年が流れたが、多くの文章を読んでの感想を受け取る機会があると、それをふと思いだす。七十歳をすぎてボランティア活動をしている男性から丁寧な手紙をいただく、さまざまな経験に触れてきた彼の目に、



ぼくの文章はどのように映ったのかと思う。まだぼくは何もわかつてはいないのではないかという思いが、つきまとうようにして離れない。

幸いなことにこれまで身近く死に接したこともなく、大きな病も貧困も、辛い被差別体験もなく生きてきたことが、生きることについて考えてきたことがどれほどのものか。何も知らず気づかないままに、大切なことの周辺を横切っているだけではないかと疑うばかりだ。

もしも、いまのぼくが、何ごとかのものを書いているのだとしたら、それは仕事をとおして出会った人から学んだものだと思う。言い古されたことだが、社会福祉という仕事では生きることが何であるかをさまざまな形で教えてくれる人に出会う。誰からも「哲学教師」と呼ばれることはないが、多くを与え教えている人がいるのである。

(知)

* 今月、私の本の読後感想会をサロンで開いてくださるということなので、このような文を書きました。

＼おしらせ＼

四月の出会い

日時 四月十八日(土)午後一時～四時
場所 育徳コミュニケーションセンター二階
研修室(スロープ車椅子トイレ有)

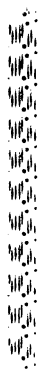
内容 「リハビリテーションと二次障害」
パネラー

大阪府身体障害者厚生相談所

所長 沢田啓裕氏

会費なし

問い合わせ TEL. 06-691-1028 (富田慶子)



井感謝します 井

カンパ・切手・お茶菓子・冊子・手帳等

ありがとうございます。

お礼を申し上げます。

二月のカンパ 金一五、〇〇〇円

磯崎章一、植松菊雄、大岩悦子、

大塚一枝、加賀谷正、金子花江、

崎本ヒサエ、田平雅之、南光龍平

松島春子、丸山寿美子、匿名四名様

(敬称略)

美智子のこんな話



岸田 美智子

ステキな新しい事務所が

見付かりましたヨ・・・

前回の「サロン・あべの」紙に書かせてもらったように、「ウイル作業所」の拡大移転の場所探しの為、あれから三〇軒ぐらいの不動産屋を回りました結果、やっと私達の希望に合う物件が見付かりました。

場所は阪和線「長居」駅と南海高野線「住吉東」駅から歩いて約十五分、住吉区大領五―一〇―十六です。

周りには、知らない人が来ると、いっせいに吠えだす五匹の犬がおり、畑もあり、大阪市内とは思えないのどかさも残っています(もうすぐなくなるでしょうが?)。

二十一坪で家賃が十六万八千円なり。大阪市内では、一坪一万円以上が相場だから、

とても安いし、大家さんとっても良い人で、好きなように改造してもいいですよと言ってお下さっていますので、車椅子に合わせた大改造が出来ました。(改造費が六百万円を超えてしまいます!!!) まず、トイレは、部屋から這って行きそのまま、使えるし、玄関の土間からは車椅子でも使えるように、便器の周りの床が取り外しが出来るように工夫します。

部屋に上がるのは、その床の高さが車椅子の高さとあまり変わらないし、車椅子の足のせなども床の下に入るようになるので、車椅子から部屋への乗り降りが出来ます。また、床の一部がスロープになるので、車椅子のままでも楽に上がれます。

そして、台所も車椅子の人が使う時は、床に板をはめ込むと使いやすくなるように工夫してあります。

お風呂もつくりませんが、介助者も動きやすいように広くなっていますし、ピンクの湯舟も洋式で浅くて埋め込むので、かなり使いやすくなります。他にも色々障害者が使いやすいように工夫してありますので、施設障害者の方々も気楽に泊まっていたけると思います。

これを皆さんがお読みになられる頃には、改造工事も終り、引越しているかもしれませんが、せん。部屋には四〇人ぐらいは入れるので、介助者の研修の場として、また、施設と地域の障害者との交流の場にもしていきたいです。お楽しみに・・・。



編集後記

2月の例会で、

車輜とホームの段差やスキ間の

ことが話に出た。これをなくすことは無理だろうが、矯正の方法はあると思う。例えばドアの下から板が出て、スロープになる方法。既に一部の駅でしているように、電車が着くと駅員さんがスロープを置く方法。また各電車にスロープを積んでおく方法。あるいは車イス使用者自身が携帯できるようなコンパクトなスロープの開発。いろいろある、どれでもよい、段差やスキ間がなくなれば、車イス使用者が電車に乗るとき気がねが一つ減るのだが・・・。(石)

セピア色した表紙には、草花の密やかな囁きとやさしさが花籠いっばいに描かれています。

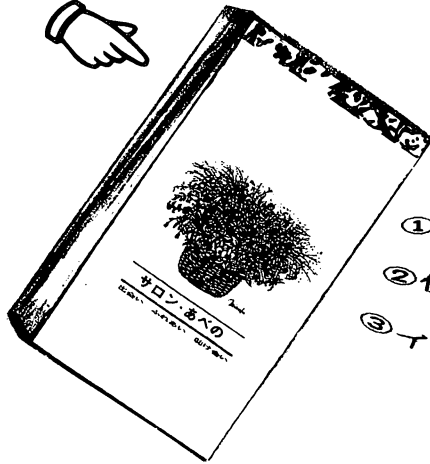
中紙は、淡いクリーム色の地に手がきの「月・日」と罫線がブラウンカラーで印刷されていて、システム手帳のスペア用紙にも使用出来る大きさになっています。

ペンすべりのよい高級紙を使っています。

出会いの楽しさ、一言の言葉の喜びを伝えてくれる《メモ帳》。

「サロンの《メモ帳》」と言ってお求めください。

○1冊 (100枚綴)・・・¥150.



- ① システム手帳にも使えます
- ② 便せんにも使えます
- ③ インクがにじみません

「これ、どうぞ。」

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.69['92. 3.21 発行] 定価¥100.

代表；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表題；斉藤孝文・筆

印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.